



WING ニュース

協同組合ウイングバレイ

No.95 操業50周年記念号

発行所 総社市久代1408-6
協同組合ウイングバレイ
発行責任者 政 宗 克 也
ホームページアドレス
http://www.wingvalley.or.jp/
印刷所 総社市総社1丁目10番24号
柳本印刷株式会社



挨拶

協同組合ウイングバレイ
理事長
書田 眞 三

協同組合ウイングバレイの操業50周年を迎えるに当たり、これまでご支援をいただきました関係諸官庁を始め、お客様、地域社会の皆様など多くの方々にお礼申し上げます。

当団地は建設当初より三菱自動車のご指導をいただき、「系列取引先の集団化」としてスタートし、集団化のメリットを生かすべく多岐にわたる共同事業を手掛け、一時期は三菱自動車の海外展開に因え、組合員企業による共同出資会社を設立し、

海外進出を果たした「共同歩調」の時代もありました。

三菱自動車水島製作所が次々とヒット車を生産していた成長の時代から2001年のダイムラー・クライスラーとの資本提携とその解消の時代を経て、現在の日本及びアジア・アセアンにシフトした生産体制へと三菱自動車はグローバル化を加速する我が国自動車産業を象徴するようなグローバル企業へと変容を遂げられました。

ウイングバレイ各社は常にこれらの変化に対応し、役割を果たして来たものと考えます。言い換えれば、

我が協同組合の歴史は三菱自動車水島製作所の歴史の一部とも言えるかも知れません。

ウイングバレイはその後、時代の変遷とともに運命共同体的な協同組合から組合員の自主自立に舵を切り、共同海外事業からの撤退をはじめとする大幅な共同事業の見直し、連帯債務保証の縮小を図り、現在に至っております。そんな中で発生したリーマン・ショックは国内自動車産業に大きな打撃を与えましたが、関係諸機関のご支援と各社の自助努力により克服されたことはもとより、共

同事業としての海外展開の経験を活かし、自らの手で個別に海外展開を進める組合員企業の出現は心強い限りです。

直近は三菱自動車が燃費問題を4月20日公表以来、対応に追われる状況です。これからも厳しい時代が予想されますが、いかなる環境にあっても組合員自らが未来を切り開いていける組合運営を目指して頑張っております。引き続き皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

操業50周年を記念し、長年ご支援賜っております総社市に三菱自動車水島製作所製電動車両を寄付するとともに、記念誌を発刊する運びとなっております。皆様のご理解をお願いするとともにご高覧いただければと存じます。

操業50周年記念事業

記念祝賀会開催

4月21日、市内サンロッド吉備路を会場として『記念祝賀会』を開催しました。

これを記念し、以下のとおり、周年記念事業を行っています。

「開会・黙とう」

開会の後、「平成28年熊本地震」で犠牲になられた方と、この10年間に逝去された3名の物故功労者の霊に黙とうを捧げました。

「功労者表彰」

当組合の運営に長年にわたり大きな功績を残された功労者の皆様へ、感謝状・記念品の贈呈を行いました。

表彰を受けたのは次の方々です。



功労者表彰

難波 正義 様
上野建太郎 様
眞田 信典 様
渡辺 晴之 様
本多 正之 様
藤原 裕文 様

「DVD上映」

続いて、操業以来の50年のあゆみを振り返るDVDを上映しました。その内容を要約したものを、本紙第2面に掲載しておりますので、ご覧ください。

「理事長挨拶」

主催者を代表して、当組合書田理事長が挨拶を申し上げます。



書田理事長 挨拶

「来賓祝辞」

次の皆様から、心温まるご祝辞をいただきました。

衆議院議員・一億総活躍担当大臣 加藤勝信様令夫人 加藤 周子 様
岡山県副知事 足羽 憲治 様
総社市長 片岡 聡一 様
独立行政法人中小企業基盤整備機構理事長 高田 坦史 様



加藤夫人 ご挨拶



足羽副知事 ご挨拶



片岡市長 ご挨拶



高田理事長 ご挨拶

株式会社商工組合中央金庫代表取締役副社長 森 英雄 様



森副社長 乾杯

「会食懇談の様子」



「お礼の挨拶」

最後に、当組合藤井副理事長から、お礼の挨拶を申し上げます。



藤井副理事長 挨拶

総社市への車両贈呈

記念祝賀会の中で、日頃お世話になっている総社市へ、三菱アイミーブ「電気自動車」を贈呈しました。これに対して、片岡市長から感謝状の贈呈がありました。

当組合では、従来、周年記念事業として、同市へ「福祉車両」消防指揮車を贈呈してきました。今回は、同市の「健康づくり」の活動に活用される車両をお贈りしました。

アイミーブ「グレードX」は、1回の充電で、180kmの走行が可能です。

また、アイミーブの急速充電コネクターに接続し、

大容量の駆動用バッテリーに蓄えられた電力を取り出すことのできるパワーボックスを装備しており、非常時や外出先などの様々なシーンで、色々な家電製品への給電が可能となっております。



車両贈呈 ゴールデンキ



車両贈呈 アイミーブ

記念誌の編纂

今秋「記念誌(50年史)」を発行すべく、現在「関係者への取材」「関係者による原稿製作」等、編纂手続きを進めております。



これまでの記念誌 如水・如水II

ウイングバレイ50年の歩み

人と自然の調和を目指し、快適な未来へ新たな可能性の翼を広げる企業集団、「協同組合ウイングバレイ」。

1966年の操業以来、幾多の困難を乗り越え、日本の自動車産業を担う最新技術の集積地として歩み続けてきました。今日までの50年間の軌跡を振り返ってみましょう。

成長期

高度経済成長の只中であつた1960年初め。モーターゼーションの進展と共に、自動車業界は生産能力の拡大と生産性の向上を迫られていました。当時の三菱重工業自動車部の指



操業開始当時の東団地



共同事業 給食盛付

導を受けて部品メーカーは、新たな大型工場団地を建設し、集団化して合理的な生産体制を敷くため、1962年に協同組合を結成。2年後、総社市との間で用地売買契約を結んで造成に着手し、1966年から現在のウイングバレイ東で操業を開始しました。共同事業としては、集団

化のメリットを活かし、共同受電・共同輸送・資材購入・給油・給食等に取組みました。

その後、三菱自動車ではミニカ、ランサー、ミラージュ、キャンター、デリカなどの人気車が誕生し、生産は好調な伸びを示します。



工場内の風景

操業からの20年間、2度にわたるオイルショックなどにより一時的に生産が鈍る時期もありましたが、日本経済の発展の中で、集団化によるメリットを最大限に生かし、ウイングバレイは順調に成長していったのです。

成熟期

1980年代半ば、円高ドル安が進み、輸出中心



EWI設立

この時期、三菱自動車は、パジェロを始めヒット車が続き



完成した西団地

変革期

消費税が5%に引き上げ

1996年

個人消費の冷え込み、金融不安の増大、企業倒産の増加など、日本は長期不況の様相を呈しました。

自動車業界の世界的再編も含め、先行き不透明な時代を迎え、団地としてどのようなあ



5つの提言への取り組み
納入先の多様化（国際見本市へ出展）

るべきか。ウイングバレイでは1999年、専門家による経営診断を受け、将来的な方向性の検討を始めた。



経営診断報告書

たことで販売台数を伸ばし、また発売する車が次々に日本カーオブザイヤーを受賞するなど、輝かしい実績を挙げました。

ウイングバレイはフル操業を行い、増産に次ぐ増産に対応、また補用品製造を担うための水島オートパーツを子会社として設立するなど、好調三菱自動車を支えたのです。

自主自立の時代

組みました。

激動期

自助努力と
支え合いの時代

2008年9月15日、アメリカの投資銀行リーマンブラザーズが経営破綻し、世界は未曾有の金融危機に見舞われました。世に言う「リーマンショック」であり、自動車業界は深刻な減産に陥りました。

これに、長期に渡る円高が追い打ちをかける形となり、さらに2011年3月の東日本大震災被害も重なって、ウイングバレイはかつてない厳しい環境に立たされました。

ウイングバレイは「主体的再編」「海外事業再構築」「生産技術力強化」「納入先の多様化」「組合共同事業のスリム化」という5つの提言をプロジェクトチームごとに検討。2003年から具体化に乗り出し、合併等による主体的再編や、個別企業に海外共同事業を譲渡する海外事業再編、共同事業の整理縮小などに取り



総社市の三菱車購入補助金受付



休業研修受付



海外進出 メキシコ

協同組合
ウイングバレイ

理事長
田 眞 三

- 曙ブレーキ山陽製造株式会社
社長 河原 光 祥

株式会社アステア
会長 水 松 幹 夫

井原精機株式会社
社長 上 野 和 彦

荻野鉄工株式会社
社長 荻 野 祐 史

享栄エンジニアリング株式会社
社長 本 多 美 奈 子

株式会社共立精機
社長 石 黒 和 之

三恵工業株式会社
社長 横 内 義 雄

新興工業株式会社
社長 笹 沼 靖 憲

総社工業株式会社
社長 藤 井 裕 幸

ヒルタ工業株式会社
会長 晝 田 眞 三

株式会社丸文
社長 横 田 直 樹

三乗工業株式会社
社長 眞 田 達 也